

3542265379が241543903する774の556

ふじ けい
藤 桂
社会心理学



意味不明な数字の羅列にしか見えないタイトルですが、どれもインターネットにちなんだ数字です。本項をご覧の皆様、少しばかり息抜きを兼ねてその正体を考えてみてください。

最初の「3542265379」ですが、これは、2017年1月末時点における世界のインターネット利用者数を表しています（<http://www.internetlivestats.com/internet-users/>）。35億…世界人口を70億と考えれば、「2人に1人以上」はインターネットを利用している計算になります。さらにそればかりか、その数は今もなお増えて続けているとのこと。皆さんが本節を読んでいる今この瞬間にも広がり続けるインターネットの中で、人々はどのように考え、どのように振る舞い、またどのような影響を受けているのでしょうか？

こうした問いを考えるにあたって、注目したいのが次の「241543903」です。もしすぐにインターネットを利用できるなら、是非とも google や yahoo でこの数字を画像検

索してみてください。きっとすぐに、異様な光景に驚かされることになるでしょう…そこには、冒頭の画像のように、「頭を冷蔵庫に飲み込まれた」人々の画像がひしめき合っているはずです！

多くの人々を巻き込んだこの異様な現象は、しかしながら実は、たった1人の発言が発端でした。2009年4月7日、デイヴィッド・ホルヴィッツ（Davidz Horvitz）という投稿者が、冷蔵庫に頭を突っ込んだ画像を撮影してインターネット上にアップロードし、その画像に「241543903」というタグをつけることを呼びかけました。この呼びかけに対して、予想外なほどに—いや、もしかすると彼の予想通りに—多くの人々が賛同し、本当に画像を撮影しアップロードを始めたのです。やがてこの活動の賛同者が世界各国で増えていった結果、Google や Yahoo の画像検索は、頭から冷蔵庫に飲みこまれてしまいました。この一件は、インターネットという技術が我々の社会行動に対して大きな影響を及ぼし、そして、多く

の人々を巻き込んで巨大な流れを作り出し得ることを示す好例と言えます。

インターネット上の世界において特に重要なのは、誰もが「774」でいられる…つまり「名無し」でいられるという「匿名性」です。匿名的な状況下では、自分の名前や正体を明かすことなく他者と交流することが可能です。またそれゆえに、どんな発言・行動をしたとしても、自分と関連付けられることはありません（こちらは、アンリシカビリティとも呼ばれます）。こうした状況では、人々の認知・感情・行動は大きく変化し、普段からはかけ離れた大胆なものになることが過去の研究で明らかにされてきました。先ほど紹介した「241543903」に関しても、非常に多くの人々が賛同した背景には、きっと、「頭を冷蔵庫に飲み込まれた」＝「顔が隠された状態であった」ことが関わっているのではないのでしょうか。

一方で、インターネット上の匿名性に関しては、心無い誹謗中傷を巻き起こし、トラブルや犯罪の温床となるというイメージが広まっているのも事実です。こうした懸念からか、近年では、インターネット上であっても実名や顔写真を掲載し、匿名であることを自ら避けて交流する人々も増えてきました。匿名状況でのコミュニケーションが、子供たちに対して有害な影響を及ぼすと考える研究者・専門家も少なくありま

せん。

しかしインターネットが我々に対して及ぼす影響は、むしろ、それを使う我々の「556」…すなわち「心」のあり方によって決められるのではないかと、というのが私の研究テーマです。インターネットや匿名性は、それ自体が良い影響または悪い影響をもたらすわけではなく、「インターネット上でどのように行動しているか」、また、「どのような性格傾向の持ち主が利用しているか」—これこそが、その影響を決める重要な要因ではないか、という視点から研究しています。実際、私が行った研究では、オンラインゲーム（仮想的なゲーム世界で、一人のキャラクターとして振舞い、普段の自分を知らない人々と触れ合える）のユーザにおいても、「ゲーム上の交流を通して、元々社交的な人はさらに社交的になる一方で、非社交的な人はますます非社交的になっていく」という結果が示されています。

インターネットの発展は目覚しく、今後どのように展開していくか、そして我々にとってどのような存在となっていくかは予想すらつきません。しかし激変する情報社会の中を、リアルタイムに生きる皆さんの感性こそが、インターネットにまつわる様々な問いを解く鍵になるはずだと感じています。そんなわけで授業や演習では、活発な意見を「4649」です！